

平成 30 年度 第 8 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(キャリア協) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回の問題のキーセンテンスは、「自分が望む仕事につけずやりがいを感じられない」です。大学院で研究までしてきた自身の専門分野の仕事につけず、この先もやりたい仕事につけそうもないので、どうしたら良いか分からなくなっているという事例ですね。その他のキーワードは、「研究者、技術者の異動は滅多にない (絶対はないとは言っていない)」「自己申告制度」「上司にきちんと答えてもらえなかった」あたりですね。「自分がやりたい仕事」と、「会社が期待していること」に齟齬があるようです。まさに、「今ここでの問題に巻き込まれていて、中・長期的な視点で仕事を捉えられていない」ということが当てはまりませんか？

【設問 1】 逐語の空欄 A で、キャリアコンサルタントとしてあなたなら CL1 の発言を受け、どのような応答をするか記述せよ。(10 点)

「エネルギー分野の研究をして世の中に貢献したいと大学院卒業後、今の会社に入社したのに、希望した仕事と違う部署に配属されやりがいを感じられないと思うのですね。“まったく違う”ということについて詳しくお話し頂けますか？」(2 行) ←「来談経緯の部分も含めた CL1 の要約と CL2 が答えになる質問を書きます。特に、感情の言葉“まったく違う”“やりがいを感じられない”に焦点を当てます。」

【設問 2】 キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10 点)

「自身の配属理由や会社側から求められている能力やスキルについて確認することなく“きちんと答えてくれない”など、コミュニケーション不足と思われる。また、今の仕事は望む仕事とは違うので転職を考えるなど、短絡的であり自己理解不足である。そのため、今現在の「仕事にやりがいを感じられない」という視点にしか目を向けられず、中・長期的ライフキャリアプランが描けていない。」(4 行)

【設問 3】 この事例の展開に関し、以下の問いに答えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える提案の要点を 2 つ記述せよ。

- ① 「社内の研究者や技術者としての異動や昇進制度」
- ② 「ご自身の今後の中期・長期的ライフキャリアプラン」

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたはこの先、どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

2 のケース

自身のやりたい仕事に向け研究に取り組んで入社し、仕事をしてきたことを労い、まずは、会社の人事や上司に、現在の部署への配属理由や会社が相談者に求めている能力やスキルについて確認することを促す。また、研究者や技術者で異動経験のある人に異動や昇進制度について詳しく話を聞き相談してみることを促す。さらに、最終的にエネルギー分野の研究に携わるにはどのような働き方をすることが望ましいかについて、昇進を含め、中・長期的なライフキャリアプランを作成することを提案し、今後も相談者自身が前向きに仕事をしていけるよう支援する。(6行)

以上